

II 道路改良事業：主要地方道福山沼隈線（福山沼隈道路）

（1）事業概要

- ① 事業箇所 福山市草戸町～福山市熊野町
- ② 規模等 道路延長：4,500m 車道幅員：14.0m（全幅員：20.0m）
- ③ 全体事業費 28,000百万円（暫定2車線）（前回の再評価時は25,000百万円）
- ④ 工期 平成12年度～令和5年度（前回の再評価時は平成12年度～令和3年度）

（2）再評価の事由

前回の再評価後5年が経過した時点で継続中の事業であるため

（3）審議内容

① 事業の内容と必要性

本事業は、福山都市圏の南方向の幹線道路として、一般国道2号バイパス福山道路と接続し、福山市中心部と沼隈半島地域との連絡を強化する役割を担っており、県土の一体的発展を担う広域道路（交流促進型）として位置付けられている。

当該道路と並行する現道の主要地方道福山沼隈線は、主要渋滞箇所である洗谷交差点において、朝夕の通勤時間帯を中心に、慢性的な交通渋滞が生じている。このため、交通渋滞の緩和、交通安全の確保及び円滑な緊急活動や災害時の緊急輸送道路の確保等を目的として、当事業を推進していく必要がある。

また、本路線は合併支援道路に位置付けられているほか、事業完成後には本県の第一次緊急輸送道路に位置付けられる予定である。

② 事業を巡る社会情勢及び必要性等の変化

国勢調査によれば、福山市の人口は、平成22年度の461,357人に対し、平成27年度は464,811人と増加している。この傾向は、近隣の交通量に関しても同様で、道路交通センサスによれば、平成22年度が14,870台/日、平成27年度が15,299台/日と増加している。

③ 進捗状況と今後の見通し

事業の完了予定年度が前回の評価時における令和3年度から令和5年度に変更されている理由は、用地交渉の難航により用地取得に時間を要したためであるが、現在では用地進捗率も90%を超えており、今後とも住民の理解を得つつ用地買収を着実に進める予定であることから、計画事業通りの進捗が図られるものと考えられる。

④ 事業費の増減と現時点での費用便益比

前回の再評価時と比較し、全体事業費が280億円と、30億円増加している。これは、現地詳細調査により、橋梁施工部周辺において軟弱地盤が確認されたことによる地盤改良工の追加や橋梁仮設工の変更、道路路面施工部において湧水が確認されたことによる法面工の変更等によるものである。

費用便益比B/Cについては、「費用便益分析マニュアル（H30.2国土交通省道路局 都市・地域整備局）」に準拠して行われた分析によれば、評価期間を供用開始後の50年間、社会的割引率を4.0%とした結果、前回の3.3（総便益（B）：781.6億円、総費用（C）：239.2億円）から3.6（総便益（B）：1126.6億円、総費用（C）：312.8億円）と増加している。その主な理由は、計画交通量の増加により走行時間短縮便益が増加したことによるものである。

⑤ 地元からの要望

一般国道2号などの著しい渋滞対策や大規模災害に備えたダブルネットワークの構築など、福山市の安定的な発展に不可欠な重要な路線であり、市民生活の安全性や利便性の向上を図るためにも、主要路線である本線の早期整備を強く望んでいる。

(4) 結論

事業の必要性と費用便益比を勘案し、当該事業の継続実施については適当と判断する。
今後は、住民の理解を得て速やかに用地買収を終わらせて工事を推進するとともに、一般国道2号バイパス福山道路の事業主体である国との連携を密にし、計画どおりに事業効果が得られるよう、関係各位には一層の努力をお願いする。